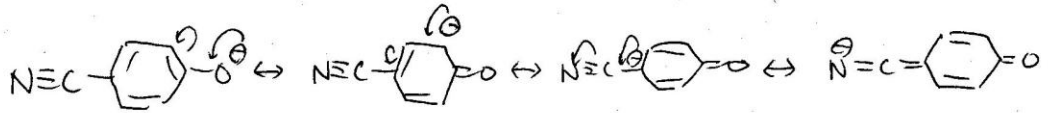
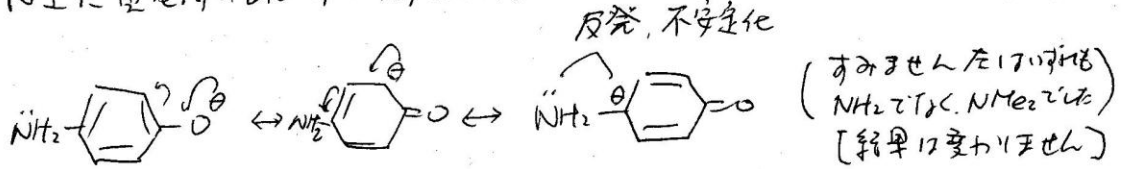


4 b) 酸解離したときの共鳴構造を示す。



N上に負電荷のある共鳴構造あり。N≡C-はアゾンと安定化。

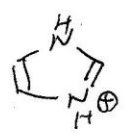
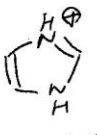


5 c)

 の N は非共有電子対を 6π 系の形成に供出し
あり。プロトン化されると芳香族性が消失するので、事実上
塩基性を示さない

 の N は、6π 系形成に p_z 軌道の 1 電子を供出しても
なお非共有電子対をもっており、塩基性を示す。

 は、一か所 H⁺ 受入れ型の N, 他方はピリジン型の
N であり、塩基性を示す。プロトン化された状態は、

 であり、これは  との間で共鳴安定化が
存在する。このためピリジンよりもカチオンの安定性が高く、つまり
塩基性大。

